き夫婦

言分批

意識を

経済•小笠原祐子教授

化社会学、ジェンダー論。 専門は労働社会学、

妻と夫がともにフルタイ

かつ継続して就業

そうした力関係とは別に

関係が往々にして逆転し

に気を遣うなど、この力 では男性社員の方がOL

それゆえに(OLを含め

た)部下をうまく使える

ことが要求されるのに対

し、OLは出世から切り

世の道が開かれており、

それは男性社員には出

付けられることが多いが、

より一般的に下位に位置 いえば、OLは男性社員

で接している日常の場面

フェース・ツー・フェースているのはなぜか。

している。 のあり方と就業意識がど 働き家庭を対象に調査を う関係しているかを研究 している、子育て中の共 家庭内での夫と妻

な社内ヒエラルキーから 調査したことだった。 内でのパワーバランスを マン(男性社員)の職場 も取り上げた一般職女性 出発点は、博士論文で フォーマル (形式的) (OL) とサラリー

別

てきた。

職場は開かれたが

その後、時を経て、男

研究目標などを語る小笠原教授

学

広

日

「ユニバーサルデザイ

老若男女といった差異を 感じずに利用することが

が言語の違いや左右の利

をいう。

き手の違い、障害の有無、

近藤教授の研究室が取

心して過ごせる海辺のデ

子どもにも安全で安

組成を分析。鉄分が多く

含まれていることなどを

人前後が迷子になってい 策。ここでは毎年500 のが、海水浴場の迷子対 洗海岸で実験をしてきた

ます」。

も定着しつつある。人々 できる環境・工業デザイン

デザイン」。高齢者や障害 るという石川県の砂浜の

つが「海のユニバーサル り組んでいるテーマの一

法だとし、乗用車も走れ

い砂質に変えるのも一方

この3年間、茨城県大

え「携帯電話のおかげで、 の結果、迷子が減ったう

親も10分以内で飛んでき

理工·近藤健雄教授

普及に努めている。

迷子対策の実験も

トバンドを子どもたちに

帯電話番号を書いたリス

配り、効果を調べた。そ

学生たちと操縦の指導や

印にした。また、親の携

所に立てて位置確認の目

と楽しめることを確かめ、

ン」という言葉が日本に

本

大

報

特

まだまだ男性と同じよう には働けない女性が多い しかし、 はないかという考えに至 中に移ることになった。 り、調査の対象が家庭 家庭にあるので

ないとよくいわれている い、家事分担だけを取り

あることが、逆に「強さ」

につながっているという

ねじれがあることが見え

離されている「弱さ」が

進出、できぬ原因は?

|労働の問題も研究

題の根っこは職場というた。 う考えていくうちに、問 のはどうしてなのか。そ

どでは女性が職場で力を

発揮する道も開かれるよ

などもあり、大手企業な 女雇用機会均等法の浸透

かと思い、「生計維持分担 意識」の調査・研究を始め 見えてこないのではない

が家事分担についてであ 男性の家庭進出 (家事分 でしばしば問題になるの するようになるが、ここ とで共働きの家庭を研究 家庭の問題でもある。そ なもので、職場の問題は 担)はまだまだ進んでい 女性の社会進出に比べ、 フェミニストの間では、

一げても物事の半面しか

コインの表と裏のよう

就業意識問う問題

の力で集めている。

性労働者が長時間労働と いう労働規範をどう受容 し、あるいはそれにどう

させる長時間労働。どう

などを省みる余裕をなく

につながり、家庭や地域

っている」。過労死や自殺

変えていけるか、研究は

すれば働き手側がそれを

「最終的には、日本の男

割をどの程度担っている かという見方である。 計(家計)を維持する役 庭の夫と妻がお互い、 分担と同様に、共働き家 生計維持分担とは家事 生

生計維持分担している点 ただ、妻の就業が生計維 では、ほとんどの家庭で 妻も夫も合意していた。 調べてみると、男性が

ると考えている男性もい もに生計維持分担してい 男性もいれば、夫婦でと め―の就業と考えている め―本人の自己実現のた 夫に問うと、妻だけのた 持分担であるかどうかを

程入学。平

プロフィル

gical A-Sociolo-

究科修士課

を経て、62年9月シカ 語学部卒。米企業勤務 58年3月上智大学外国 さわら・ゆうこ)昭和

1大学大学院社会学研

会学会、American 年4月同教授。日本社 学経済学部助教授、17

成7年6月同研究科博

士課程修了、社会学博

学会などに所属。著書 ssociation 組織

きの家庭では、働いて収 た。 こうしたことから共働

国際コースの学生たちには英語 で「女性労働論」などを講議する

結局、それがネックにな 女性の就労などの問題も 抵抗できるか研究したい。

小笠原 祐子(おが

江戸川大学社会学部助

などを務め、11年4月

教授、13年4月日本大

は、就業意識を問う問題 に生計を維持しているこ 入を得ることが、自動的 であることが明らかにな とを意味せず、生計維持 研究のためのデータの 条件に合致した人を個人 めで、回答者も、 収集は専ら、 を引き出す必要があるた 行っている。人の 接インタビューす によって制約があるので 対象者に直 る形で テーマ

現代GPに採択

得。国際基督教大学国 スタンス〉」(中公新書) 士学位(Ph. D.)取 に「OLたちの〈レジ

除関係学部非常勤講師

ほか。神奈川県出身。

設計製図の授業で学生たちを指導

東京湾再生活動も展開

ら人が遠のいていますが、 突いて砂浜を歩くのは無 る。ただ、車いすや杖を 高齢者や障害者が7割い と、海に行きたいという アンケートをとってみる 埋なんです」 明らかにしてきた。 という遊具の性能評価も

砂浜を、歩いても沈まな いバルーンタイヤを装着 そこで、砂に埋もれな

(3)

れる―方法を研究。子ど てもすぐに親のもとに戻め、5以ぐらいのさおの ンパンマン」のキャラク もたちに人気のある「ア にならない②迷子になっ 先に、今度はクマノミ で見えないこともあるた の吹き流しを付けるなど 「ニモ」のキャラクター 安 ながります」と話す。 NPO「ユニバーサル社 増え、地域活性化にもつ 判になれば、訪れる人も

一貫した姿勢。5年前に していこう」というのが

「海を多くの市民に開放

彰し啓蒙していこうとい

加型のプロジェクトを表 や環境に優しい、住民参

う趣旨で、自ら審査委員

長を務める。

再生への取り組み。 れたのが、東京湾の環境 踏まえた研究活動を求め また学生には現地調査を みようというスタンスだ。 ステムを観察し、 ており、その成果が表わ ローバルな視点で社会シ 「何か新しい提案」を試 _ サムシングニュー」。 グ 研究室の活動 方針は 常に 学理工学部建築学科助 をめざす21世紀の海洋 了。48年本 学大学院修 卒。47年ハワイ州立大 委員など各種委員会委 本学理工学部建築学科 う・たけお)昭和45年 近藤 健雄(こんど

プロフィル

員。著書に 「環境創造

湾流総計画策定懇談会 授。国土交通省の東京

教授を経て平成7年教

津市と共に取り組み が進む中心市街地と港を 更津港インナー してきた。17年度に木更 部などの再生計画を提案 木更津市、市原市の臨海 として川崎市、館山市、 これまでに授業の一環 空洞化 んだ「木 日本港湾協会企画賞を受 代GP)にも採択された。 が中心になり、東京湾環 組み支援プログラム」(現 大学改革プロジェクト 評価され、文部科学省の 賞した。こうした活動が 「仮想の大学です。 日大 東京湾大学」の設立。 現代的教育ニーズ取り いま目指しているのは 手、53年同学部海洋建 築工学科専任講師、助 北海道出身。59歲。 開発」など。工学博士。

全で安心な海水浴場と評

大賞」もつくった。弱者

げ「水辺のユニバーサル

会工学研究会」を立ち上

境学部とか海洋スポーツ 組むグループなど、6つ ある人が参加し、教えた 健康学部とか5つの学部 のNPOと連携、活動 殖で東京湾の浄化に取り グループや、アマモの養 という。そのため、海底 設立総会を開くのが目標」 を考えています。興味の のごみを拾うダイバーの い人が教授になる。来年、 輪を広げている。

学生たちと市原市臨海部調査中の近藤教授

ザインを追求している。 「高齢化社会の中で海か

ディンギという2人乗り 行い、例えば、アクセス 障害者でも簡単に操縦し の小型ヨットが高齢者や 海辺で安心して遊べる ターの看板を海岸線の随 るため、①子どもが迷子 ンの看板はパラソルなど 0 "改良 も加えた。